

# 「集う、学ぶ、結ぶ」、身近な公民館



公民館は、英語で"KOMINKAN" と呼ばれるように、世界に誇る日本独自の社会教育施設です。公民館は、太平洋戦争の敗戦による混乱と荒廃の中で、郷土復興を掲げ、官と民が一体となって作り出した社会教育施設です。その核となったのは、地域ぐるみによる「ひとづくり」、「ものづくり」、「まちづくり」の総合的推進でした。

そして、どの市町村にも設置されることとなり、現在、その数 17,947 館（平成 14 年度文部科学省社会教育調査）。全国の中学校数が約 10,000 校ですから、中学校区に約 2 館の割合で存在していることになります。

このように、公民館は、地域住民に最も身近で、なくてはならない存在となっています。

「公民館 60 年」を迎えようとしている今、設立当初の願いを振り返りながら、公民館と人権とのかかわりを考えていくことにしましょう。

## 公民館の目的

### 社会教育法 第5章 公民館

（目的）

第 20 条 公民館は、市町村その他一定区域内の住民のために、実際生活に即する教育、学術及び文化に関する各種の事業を行い、もって住民の教養の向上、健康の増進、情操の純化を図り、生活文化の振興、社会福祉の増進に寄与することを目的とする。

この条文は、公民館の目的を定めたものです。日常生活に密着した総合的な社会教育施設である公民館は、住民の知性、感性、徳性、健康を基底として目的が達せられるべきと述べられています。

この考え方は、公民館誕生の契機となった昭和 21 年 7 月の文部次官 <sup>つうちょう</sup>通牒からも読み取ることができます。

#### 公民館の設置運営について

（昭和 21 年 7 月 5 日発 社第 122 号 各地方長官宛 文部次官）

##### 1. 公民館の趣旨及び目的

これからの日本に最も大切なことは、すべての国民が豊かな文化教養を身につけ、他人に頼らず自主的に物を考え平和的協力的に行動する習性を養うことである。そして之を基礎として盛んに平和的産業を興し、新しい**民主主義**に生まれ変わることである。……

##### 2. 公民館運営上の方針

(4) 公民館は、・・（中略）・・お互の**人格**を尊重し合って自由に討論談義するに**自分の意見を率直に**表明し、又他人の意見は率直に**傾聴**する習慣が養われる場所となる様に運営されなければならない。

公民館は、敗戦を契機として、教育の民主化、文化国家の建設という形で生まれました。

戦前の社会教育の反省に立ち、学校とは別の「独自の施設」で「大人になっても学べる場」として公民館は誕生したのです。

しかも、世界人権宣言が採択された昭和 23 年 12 月 10 日より早い時期に、人格の尊重・相互尊重・傾聴という「人権の視点」が位置付けられていたということは、注目すべきことです。

## 公民館の機能・役割

昭和 22 年 6 月に、公募によって選ばれた「公民館の歌」が発表されました。

「公民館のつどい」から、郷土を興し、郷土にひらき、郷土に生きる、「よろこび」「ゆかしさ」「たのしさ」が歌い上げられています。

学習意欲に燃えた人々が多くの学習機会を求めて公民館にやってきた様子が目に浮かぶようです。

昭和 22 年 3 月、教育基本法によって法的根拠が示され、昭和 24 年 6 月、社会教育法によって立場が明確にされた公民館は、社会のニーズの変化に対応しながら、生涯学習振興の中核として発展してきました。そして、今日では、IT 革命を始めとする社会構造や地域社会の大きな変革の中で、新しい時代に生きる人々のための社会教育施設として、さらなる役割が期待されています。

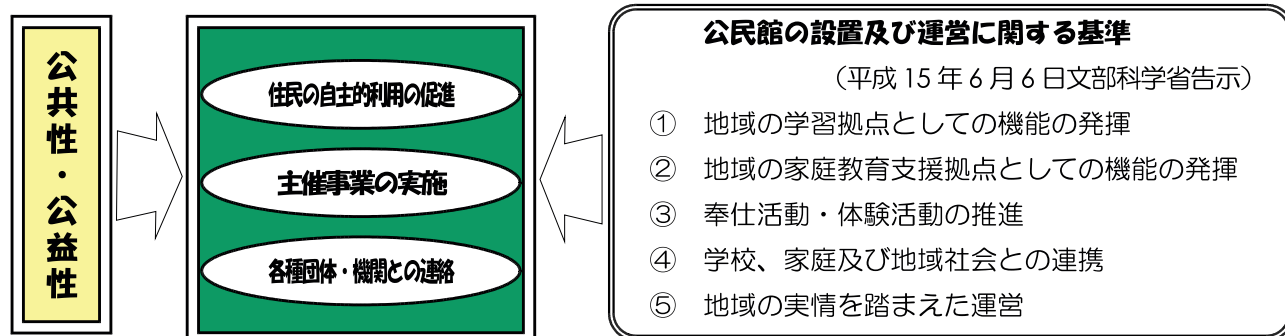
### 公民館の歌（自由の朝）

山口晋一 作詞  
下総皖一 作曲

一、平和の春に あたらしく  
郷土を興す よろこびも  
公民館の つどいから  
とけあう心 なごやかに  
自由の朝を たたえよう

二、心の花の おやかに  
郷土にひらく ゆかしさも  
公民館の つどいから  
希望を胸に 美しい  
文化の泉 くみとろう

三、働くものの 安らかに  
郷土に生きる たのしさも  
公民館の つどいから  
まどいになごむ ひとときに  
明日への力 そだてよう



## 公民館は、「人権教育の拠点」

昭和 42 年 7 月、全国公民館連合会は、公民館の役割についてまとめた文書を発表しました。そこでは、公民館活動そのものが、「人権教育」として機能すべきと述べられています。

### 公民館のあるべき姿と今日的指標（昭和 42 年 7 月 全国公民館連合会）

#### 2. 公民館のあるべき姿

公民館は、住民の生活の必要にこたえ、教育・学術・文化の普及ならびに向上につとめ、もって地域民主化の推進に役立つことを目的とする。このためには、つぎのような理念に立たなければならない。

- ① 公民館活動の基底は、**人権尊重の精神**にある。
- ② 公民館活動の核心は、国民の生涯教育の態勢を確立することである。
- ③ 公民館活動の究極のねらいは、住民の自治能力の向上にある。

公民館で行われる事業として、施設の開放（住民の自主的利用の促進）や学習の機会提供（主催事業の実施）等がありますが、ここで配慮したいことに、「学習権」があります。質の高い事業を提供することはもちろん、「学習したいときに学習したい人が学習できる」ための条件整備や、「学習したくても学習できない人（アウトリーチ）」への対応等が考えられます。

このように、公民館は、昔から、「人権教育の拠点」として地域住民を支えてきたのです。それでは、次に公民館で行われる「人権学習とは何か」について、詳しく考えていきましょう。

#### 学習権宣言（昭和 60 年 第 4 回ユネスコ国際成人教育会議）

学習権とは、読み書きの権利であり、問い続け、深く考える権利であり、想像し、創造する権利であり、……（中略）・・ 個人的・集団的力量を発達させる権利である。

- ◆ 学習権は、人間の生存にとって不可欠な手段である。
- ◆ 学習権なくしては、人間的発達はありません。
- ◆ 学習権は、基本的権利の一つである。